

科目名	安全政策論	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			総合政策学部	□ 必修 ■ 選択
			学部	□ 必修 □ 選択
英文表記	Public safety policy	開講年次	□ 1年 ■ 2年 □ 3年 □ 4年	
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中	
ふりがな	まるや あきひこ	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	丸谷 明彦	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	社会における安全政策全般について学ぶ。			
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。 1 公共の安全に関する日本の情勢について説明ができる。 2 社会の安心・安全のための政策についての知識が身につく。 3 自分自身の問題として、安全政策に貢献する必要があることを認識できるようになる。			
授業概要	安全政策は、国だけでなく民間企業や社会全体で取り組むべき問題です。ハード面では、高度経済成長期に整備されたインフラは補修や更新の必要な時期に来ており、早急な対策が求められています。さらに、犯罪や災害の現状と対策についても個々の事例を踏まえた上で、リスク・マネジメントやクライシス・マネジメントのあり方について考えていきます。			
授業計画				
第1回	全体のガイダンス			
第2回	科学技術の発展と人間社会			
第3回	人間と社会を脅かす事象①：人間・自然・人工物			
第4回	人間と社会を脅かす事象②：自然災害			
第5回	人間と社会を脅かす事象③：社会災害			
第6回	人間と社会を脅かす事象④：環境リスク			
第7回	人間と社会を脅かす事象⑤：戦争・犯罪・テロ			
第8回	前半のまとめ・課題レポート			
第9回	リスク・マネジメント			
第10回	リスクコミュニケーション			
第11回	クライシス・マネジメント			
第12回	防災・減災・縮災のための公的システム			
第13回	政府の防災・減災活動と防災・減災・縮災のための民間システム			
第14回	現代社会における安全という価値、社会安全のためのガバナンス・合意形成			
第15回	まとめ			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	1. 授業の前にテーマについて、ネットなどで調べ、大まかなイメージをつかんでください。その際、疑問や質問も考えておいてください。(2時間程度) 2. 毎回、前回の講義内容の確認を行いますので復習をしっかりと行ってください。(2時間程度)			
履修条件 受講のルール	適宜資料を配布しますが、事前に連絡がなく欠席した学生には原則として配布しませんので、友人同士でコピーしてください。講義の際は、前回までに配布した資料を必ず持参して下さい。			
テキスト	授業の中で、ご紹介していきます。			
参考文献・資料	関西大学社会安全学部『社会安全学入門－理論・政策・実践－』（ミネルヴァ書房）			
成績評価の方法	【試験（中間30%、期末30%）、受講態度40%】 上記評価項目を基に総合的に判断します。特に受講態度を重視します。			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。</li> <li>・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。</li> <li>・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。</li> </ul>
オフィスアワー	学内にいる間、柔軟に対応いたします。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	私は公務員として公共の安全に関する業務に携わってきました。この授業をとおして、国や地方自治体の実際の防災・テロ対策や官民連携の実情についてお話したいと思います。
学生へのメッセージ	日本を取り巻く情勢が大きく変化する中、安心・安全な社会の実現について興味のある方々の積極的な参加を期待しています。身近な具体例を活用しながら、これからどのようなことが必要とされているのか、一緒に考えていきましょう。